

第4章 複式学級における指導

第1節 複式学級における指導の特質と指導形態

1 複式学級における学習指導の特質

長 所	留意したい点
1 一人一人の実態を詳しくつかむことができ、指導の記録などもとりやすい。 2 異学年構成の中で温かい人間関係を醸成しやすい。 3 少人数のため一人一人に存在感をもたせやすい。 4 上学年の児童が下学年の児童の世話をよくするようになり、リーダー性を育てやすい。 5 異年齢同士の協力的な態度を養いやすい。 6 自ら学ぼうとする態度や能力を育てるための時間を確保しやすい。また、ガイド学習の導入により、学び方が身に付く。 7 学習内容の系統性が分かりやすい。 8 2つの学年の指導内容の系統性をつかむことができる。	1 児童相互の刺激が少なく、競争心などを育てにくい。 2 話し合いにおける発言が偏りやすく、多面的、発展的な考え方を育てにくい。 3 実験、作業など一人当たりの分担が大きくなりやすい。 4 下学年児童の依頼心が強くなりやすい。 5 学年、男女の人数によっては、やりにくい学習がある。 6 直接指導の時間が短い。したがって、 ○ 個別指導の時間を十分にとることが難しい。 ○ 考えを十分に引き出すことが難しい。 ○ 多様な考えに対応することが難しい。 ○ 実験、作業などの際の直接指導に十分な時間をかけることが難しい。 7 教材の組み立て、配列が難しい。 8 1単位時間の中で共通、直接指導などの形態が先行して指導内容が構成されるということが生じる場合がある。

2 複式指導の指導形態

複式指導の指導形態には、「学年別指導」と「同単元指導」があります。

「学年別指導」とは、同じ時間に学年ごとに全く別々の学習を行うことです。「同単元指導」とは、同じ時間に、同じ教科、内容等を設定し、2つの学年を1つの学級とみなして学習を行うことです。

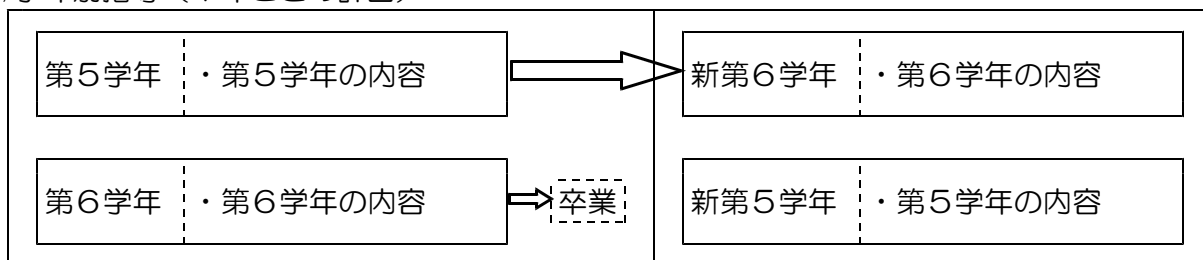
複式指導	学年別指導		
	・1年ごとの計画	・異教科の組み合わせである。 ・同教科・異単元の組み合わせである。	
	同単元指導	二本案による指導 ・2年にわたる計画	・同教科・同単元・同程度で教材を構成する。 ・年度（A年度・B年度）ごとに教材が変わる。
		完全一本案による指導 ・1年ごとの計画	・2学年分の単元を1年間で学習を圧縮して単元を構成し、2年間繰り返す。
		一本案による指導 ・1年ごとの計画	・同教科・同単元・異程度で教材を構成する。 ・可能な限り共通指導場面を設定する。
折衷案による指導 ・2年にわたる計画		・一本案を主体に一部二本案を取り入れる。 ・二本案を主体に一部一本案を取り入れる。	

3 指導形態の説明

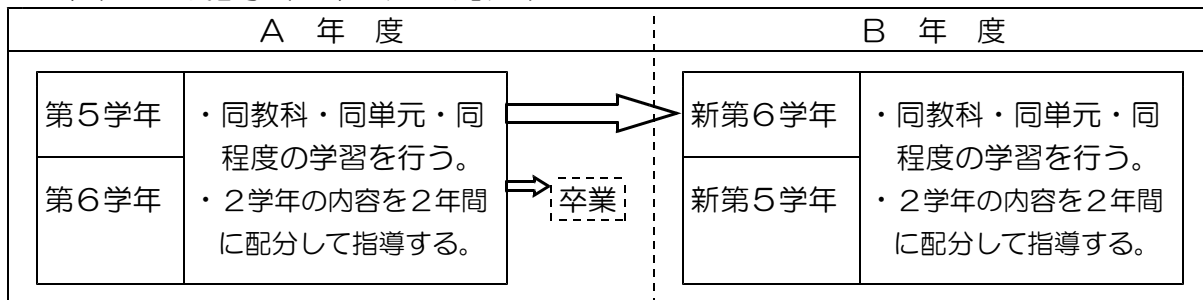
学年別指導	<p>○ 同じ時間に2つの学年の異教科の指導をしたり、同教科の指導でも内容や程度の異なった教材を別々に指導したりするものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習内容に系統性がある教科の場合や複式指導解消のための教頭の授業参加が行われている教科の場合は、この指導がとられる場合が多い。 ・ 本書48ページにあげたのは、この指導の例である。 <p>〔学年別指導がよくみられる学校〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 変則複式学級のある学校 ・ 単式学級と複式学級のある学校 ・ 欠学年がある学校 ・ 転出、転入が多い学校
同案単	<p>○ 2つの学年の内容を、A年度（第1年次）・B年度（第2年次）の2年間に平均的に配分して指導を行うことである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 同教科・同単元・同程度で単元を構成して2つの学年を同時直接指導をする方法であり、複式の単式化を目指すものである。 ・ 間接指導の解消や多人数化によるコミュニケーションの充実を図るところに特色がある。単元や内容によっては、学年の能力差などに配慮する必要がある。 ・ 本書49ページにあげたのは年間指導計画の例である。 <p>〔二本案による指導の年間指導計画作成の配慮事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2学年分の教材をA・B年度に平均的に配分する。難易度を同程度にする。 ・ 学習内容の重点化を図り、教材の系統性・発展性・順序性・適時性などに配慮して配分する。 ・ 主体的な学習活動が展開できるように、児童の興味・関心を満足させるような教材の構成をする。 ・ 学年差や能力差を補うため、教材・教具の活用を図る。
元完全一本案指導	<p>○ 2つの学年の内容を、1年間で学習できるように教材を圧縮して単元を検討し、これを2年間繰り返し指導する方法である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 同教科・同単元・同程度で指導を行う。指導内容を精選する必要があり、指導時間も限られているため、下学年への配慮が必要となる。上学年では指導内容に対する新鮮味が失われることに対する配慮も必要となる。メリットとしては、2年間の学習により、学習内容の定着化が図られることである。 ・ 本書50ページにあげたのは、この指導の年間指導計画例である。
一本案	<p>○ 2つの学年の教科の指導計画が一本ということである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 同教科・同単元・異程度で学年差が明確である。つまり、単元が同じであっても、学習の到達目標に学年差を認め、下学年の学習内容の発展の上に上学年の学習内容が展開されるように指導する方法である。 ・ A・B学年がそれぞれの学習目標を達成できるように、その教科の同じ領域や分野の教材をできるだけ学年ごとに同じ指導時間に対応させて配列する。ただし、関連のある教材によってA・B学年に共通の指導場面を設定するように心がけなければ、一本案による指導の意義を薄めてしまうことになる。 ・ 学年差を考慮して系統性をもった内容を2年間繰り返すため、「繰り返し案」とも呼ばれている。 ・ 本書51ページにあげたのは、この指導の例である。
折衷案	<p>○ 一本案中心のタイプ（一本案による指導を主体に、一部二本案による指導を取り入れた指導計画）、または、二本案中心のタイプ（二本案による指導を主体に、一部一本案による指導を取り入れた指導計画）である。</p>

4 指導形態の図式化〔第5・6学年の複式学級を想定〕

(1) 学年別指導（1年ごとの計画）



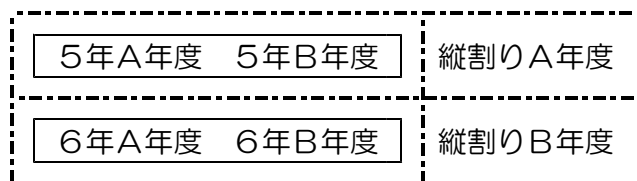
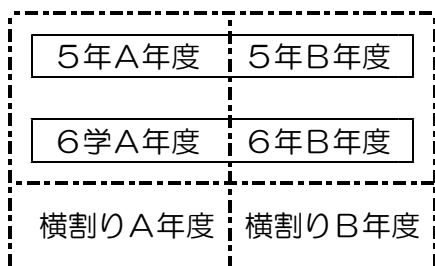
(2) 二本案による指導（2年にわたる計画）



※第5学年と第6学年の2年間を通じて、2学年の内容を学習することになる。

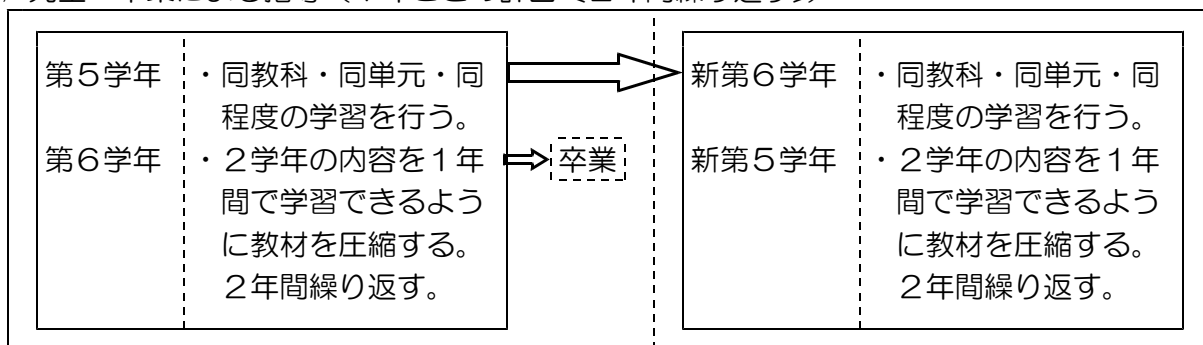
○ 横割り方式

○ 縦割り方式

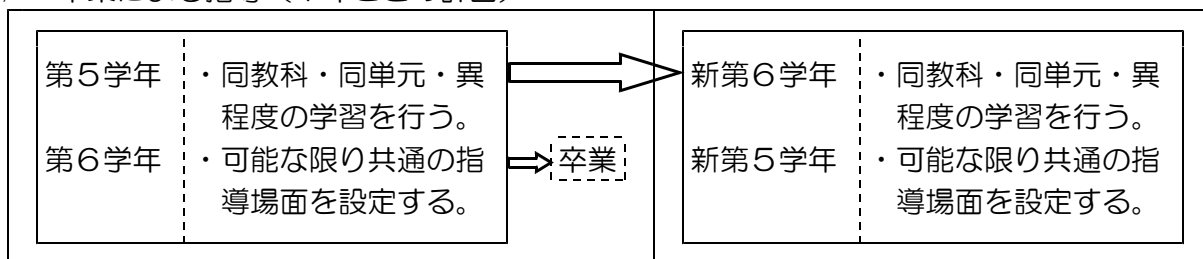


※A年度に5年生の内容、B年度に6年生の内容という縦割り方式を採用している学校もある。

(3) 完全一本案による指導（1年ごとの計画〔2年間繰り返す〕）



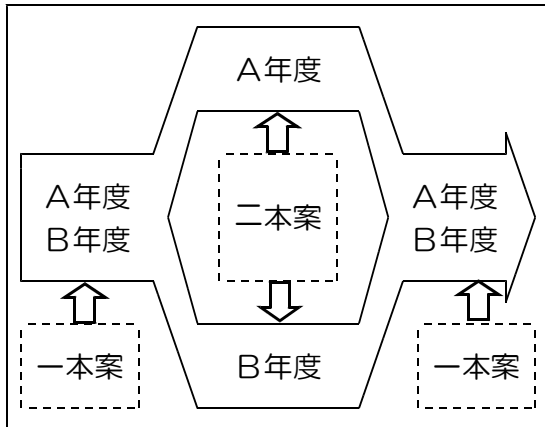
(4) 一本案による指導（1年ごとの計画）



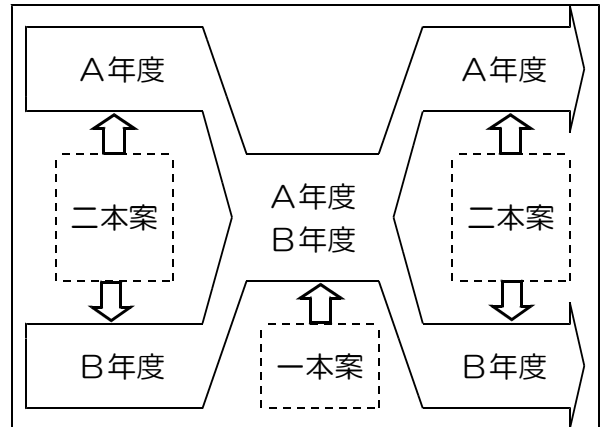
〔例〕 音楽のリコーダーの学習では、第3学年は基礎的な演奏の仕方を学習し、第4学年は発展的な演奏の仕方を学習する。可能な限り、共通の指導場面を設定する。

(5) 折衷案による指導（2年にわたる計画）

【一本案中心のタイプ】



【二本案中心のタイプ】



【例：第3・4学年 算数科 学習指導案（学年別指導）】

第3・4学年算数科学習指導案							
《本時の目標 第3学年 単元名「2けたをかけるかけ算の筆算」							
○ (2位数) × (2位数) で部分積が2桁の筆算の仕方が理解できる。							
第4学年 単元名「変わり方」							
○ 変化の様子を表にかいて、変化のきまりを見つけ、□や○を用いた式に表すことができる。							
《学習指導過程》							
第3 学 年				第4 学 年			
資料準備	指導上の留意点及び評価の観点	学習内容及び活動	形態時間	形態時間	学習内容及び活動	指導上の留意点及び評価の観点	資料準備
問題集	○ 前時学習内容の計算問題を解く。	1 前時の学習を振り返る。 ・(2位数) × 何十の問題について復習する。	間 接	直 接	1 学習場面を見て、本時の課題をつかむ。 表をつかって変化のきまりを見つけ、□や○を使った式に表そう。	○ 視覚的に理解できるように正方形の図を準備する。	図
挿絵	○ 前時学習を想起させながら、本時学習の課題について確認させる。 23×34の筆算のしかたを考えよう。	2 本時の課題をつかむ。	直 接	間 接	2 図を基に、表にかいて調べる。	○ ノートに図をかかせて4段まで表を作成させる。 ○ どのようにしてまわりの長さを見つけたのかについても、説明できるようにさせる。	
	○ これまで学習した内容や、前時に学習した内容を用いながら、答えを導き出させる。	3 23×34の計算の仕方を考える。 23×30=690 23×4=92 あわせて782	間 接	直 接	3 表をもとにして、変化のきまりについて話し合う。	○ 正方形の数が1段ずつ増えると、まわりの長さがどう変わるか確認させる。	
	○ 筆算については、縦に書く際に、位をそろえる必要性を十分に理解させる。	4 筆算の仕方を知る。 ・考え方をもとにして筆算の仕方を覚える。	直 接	間 接	4 きまりを基に、□や○を用いた関係式に表す。	○ 段の数を□、まわりの長さを○として関係式を作らせ、そのよさについて気づかせる。	
	○ 声に出して筆算の練習をさせる。	5 反復練習をする。	間 接	直 接	5 段が10段の時を考える。	○ 関係式をもとに、10段の場合について考えさせる。	
問題集	○ 筆算の仕方や答えを確認することで、つまずきがないようにする。	6 練習問題を解く。	間 接	直 接	6 本時の学習についてふりかえり、まとめる。	○ 表をつかって問題を解くことのよさについてまとめる。	
	○ 次時は桁数が増える問題に取り組むことを確認する。	7 本時の学習についてふりかえる。	直 接	間 接	7 練習問題を解く。	○ 問題の違いに気付かせながら類似問題を解かせていく。	問題集

【例：第3・4学年 理科 年間指導計画（二本案：A・B年度）】

年間指導計画案 A年度			年間指導計画案 B年度		
月 時数	単 元 名	時数	月 時数	単 元 名	時数
4月 ㊟	3年 しぜんを見つめる	1	4月 ㊟	4年 1 春の自然	10
	3年 1 身近なしぜんのかんさつ	4			
	3年 2 たねをまこう	4			
5月 ㊟	3年 3 チョウを育てよう	10	5月 ㊟	3年 7 電気で明かりをつけよう	8
6月 ㊿	3年 〇 植物の育ちとつくり	3	6月 ㊿	3年 8 じしゃくのふしぎをさぐる ろう	12
	4年 5 空気や水をとじこめると	6			
7月 ㊿	3年 〇 いろいろなこん虫のかん さつ	5	7月 ㊿	4年 〇 夏の自然	5
	4年 〇 夜空を見よう	2		4年 〇 出かけよう科学の世界へ	2
	3年 〇 出かけようしぜんの中へ	2			
9月 ㊟	3・4年 〇 理科から仕事へ	1	9月 ㊟	3年 5 かげのでき方と太陽の光	9
	3年 〇 植物の一生	4			
10月 ㊿	4年 4 月や星	6	10月 ㊿	3年 6 光のせいしつ	7
	3年 4 風やゴムのはたらき	7		4年 3 1日の気温の変化	7
11月 ㊿	4年 〇 みんなで使う理科室	3	11月 ㊿	4年 〇 秋の自然	4
	4年 7 ものの温度と体積	8			
12月 ㊿	4年 8 もののあたたまり方	7	12月 ㊿	4年 2 電気のはたらき	11
	4年 〇 冬の夜空	2			
1月 ㊿	4年 9 水のすがた	9	1月 ㊿	4年 〇 冬の自然	5
2月 ㊿	4年 10 水のゆくえ	6	4年 6 ヒトの体のつくりと運動	7	
			2月 ㊿	3年 〇 おもちゃランドへようこ そ	6
3月 ㊿	3年 9 ものと重さ	8	3月 ㊿	4年 〇 生き物の1年間	5

※ 2学年分の内容をそれぞれ振り分けるので、系統性に十分配慮する。

※ 時間数と教材の難易、領域、分野ができるだけ均等になるように十分配慮する。

【例：第5・6学年 音楽科 年間指導計画（完全一本案）】

月	コーナー名	共通事項	教材	内容	時数
4	音の重なりとひびき	旋律、フレーズ リズム、反復	○ おぼろ月夜（共）6年	表現	5
			○ こいのぼり（共）5年	表現	
		○ 茶色の小びん 5年	表現		
		旋律	○ 君が代、校歌	表現	
5	演奏のみりよく 言葉と音楽	旋律、音色、フレーズ	○ 赤とんぼ（共）5年	表現	5
		旋律、反復・変化 音楽の縦と横の関係	○ 交響曲第5番「運命」 （第1楽章）6年	鑑賞	
6	音楽の旅 にっぽんのうた みんなのうた	音階、音色	○ 子もり歌 5年	表現	6
		旋律、フレーズ	○ 荒城の月、箱根八里他 （日本の歌）6年	表現	
		音楽の縦と横の関係 旋律、反復	○ 交響組曲「シェエラザード」 （第1楽章）6年	鑑賞	
7	夏の風景	音色、強弱、フレーズ	○ われは海の子（共）6年 ○ 渡り鳥と少年 5年	表現	2
9	伝えよう 日本の音楽	旋律、音色、速度	○ 越天楽今様（共）6年 ○ 運動会の歌	表現 表現	8
10	世界の音楽	旋律、音色 音楽の縦と横の関係	○ 春の海 6年 ○ アジアの国々の音楽 5年	鑑賞 鑑賞	
11	言葉と音楽 音楽に思いをこめて	音楽の縦と横の関係 旋律	○ カントリーロード 6年 ○ 未来への賛歌 6年 ○ 静かにねむれ 5年	表現 表現 表現	9
12		音楽の縦と横の関係 音色、旋律	○ 交響曲第9番「新世界より」 （第4楽章）6年	鑑賞	
1	豊かな表現を求めて	旋律、フレーズ	○ 冬げしき（共）5年 ○ スキーの歌（共）5年	表現 表現	5
		音色、旋律 音楽の縦と横の関係	○ 歌げき「イーゴリ公」 から 5年	鑑賞	
2	音楽のききどころ 音楽に思いをこめて	旋律、和声の響き	○ ふるさと（共）6年 ○ つばさをください6年 ○ あおげばとうとし6年 ○ 生命のいぶき	表現 表現 表現 表現	8
			変化、音色、旋律	○ ピアノ五重そう曲「ます」 第4楽章 5年	
3	みんなで歌おう	音色、旋律	○ 卒業式の歌 6年	表現	2

※ 表現の歌唱教材は第5学年、6学年では4曲中3曲以上を扱うこととする。

※ 完全一本案は、上記の年間計画で2年間指導を行う。

【例：第3・4学年 音楽科 学習指導案（一本案）】

第3・4学年音楽科学習指導案

《本時の目標》

第3学年 ○ リコーダーの基本的な演奏の仕方に慣れる。

第4学年 ○ パートの役割を意識し、互いの音を聴き合いながら演奏する。

《学習指導過程》

資料準備	指導上の留意点及び評価の観点	学習内容及び活動	形態	形態	学習内容及び活動	指導上の留意点及び評価の観点	資料準備
学習計画表	○ 学習計画表をもとに学習課題を確かめ、見通しをもたせる。 ○ 楽しくゲームを取り入れることによつて意欲付けを図る。	1 本時の学習内容を確かめ、学習の見通しをもつ。	直	直	1 本時の学習内容を確かめ、学習の見通しをもつ。	○ 学習計画表をもとに学習課題を確かめ、見通しをもたせる。 ○ 楽しくゲームを取り入れることによつて意欲付けを図る。	学習計画表
		リコーダーの演奏の仕方を学ぼう。			パートに分かれてリコーダーを上手に演奏しよう。		
リコーダー	○ 演奏を聞くことで、これからの学習に関心をもたせる。	2 リコーダーについて知り、演奏を聴く。	直	直	2 リコーダーについて知り、演奏を聴く。	○ 既習事項を確認する。演奏を聴くことによつて意欲を高めさせる。	リコーダー
	○ 指や舌の使い方、姿勢について確認する。	3 リコーダーの演奏の仕方について学習する。	直	間	3 「もののけ姫」の基本となるパートを練習する。	○ 既習事項を生かしながら練習をさせる。	
	○ 個人での練習の後、ペア、小グループでの練習をさせる。 ☆ 正しい指使いで演奏することができたか。	4 小グループごとに分かれて演奏をする。	間	直	4 サミングの仕方について学習する。 5 「ハローサミング」を演奏する。 6 「もののけ姫」をパートごとに分かれて練習する。	○ サミングを理解して指使いを確認させる。 ☆ 正しいサミングで演奏することができたか。 ☆ パートごとの演奏に意欲的に取り組もうとしていたか。	
	○ 上手に演奏ができている児童を賞賛する。	5 グループごとに演奏をする。	同	同	7 グループごとに演奏をする。	○ 上手に演奏ができている児童を賞賛する。	
	○ 自己評価カードに記入させ、本時の学習への取組を振り返らせる。 ○ 頑張っている児童を賞賛し、次時への意欲付けを図る。	6 本時の学習を振り返る。	直	直	8 本時の学習を振り返る。	○ 自己評価カードに記入させ、本時の学習への取組を振り返らせる。 ○ 演奏の工夫や音の重なり的美しいところを振り返らせる。	

※ 第3年生はリコーダーの基礎的な演奏の仕方を、第4学年はリコーダーのパートごとに分かれて演奏をするなど発展的な演奏の仕方を学習する。